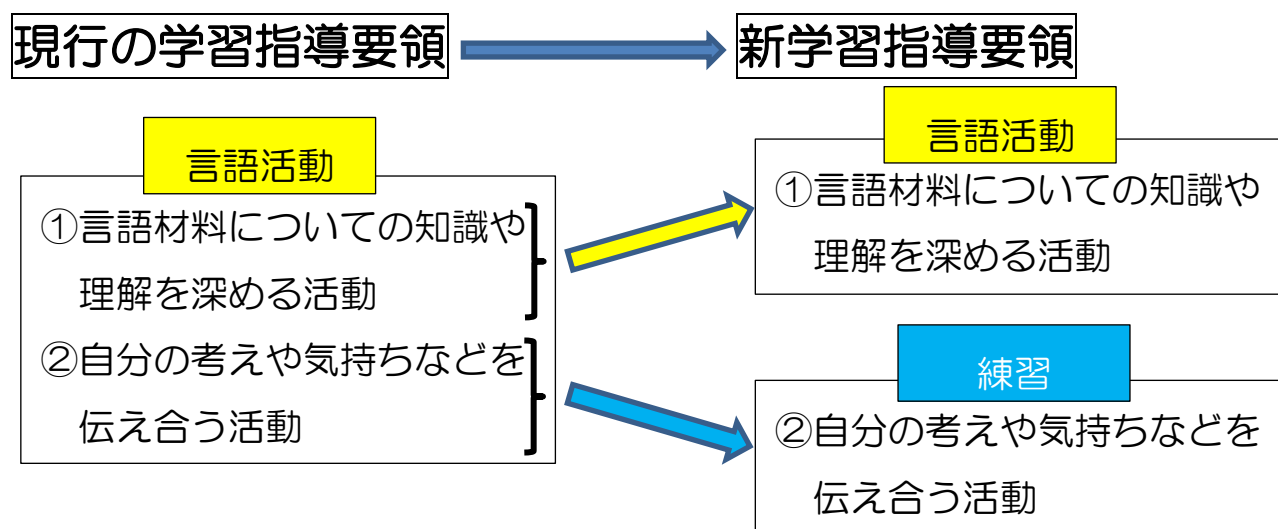


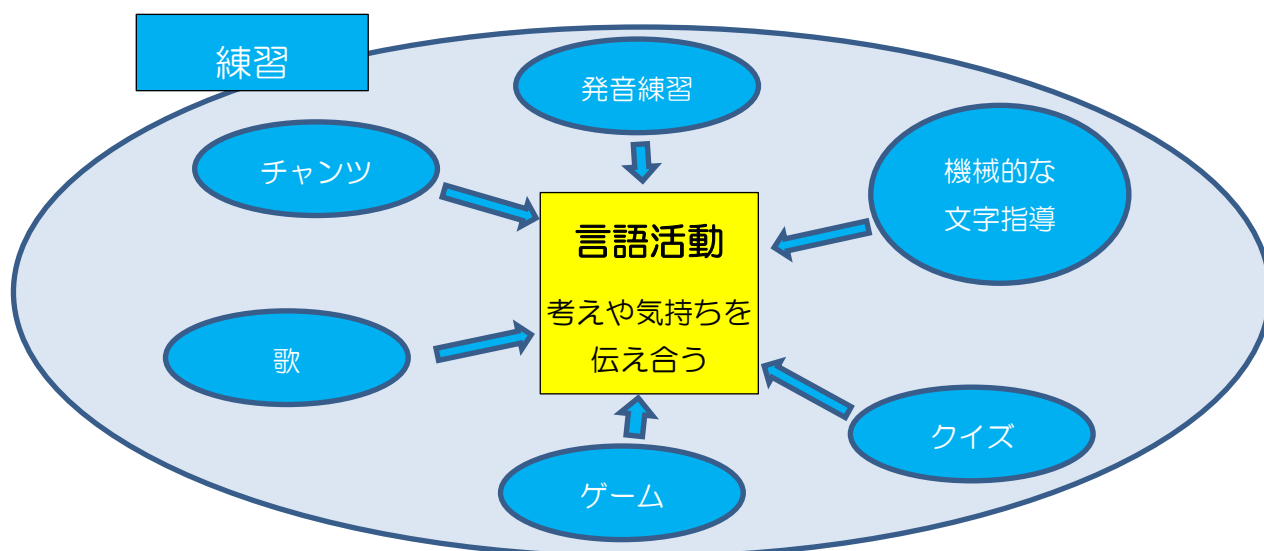


言語活動と練習のバランスを！

第15回全国小学校英語教育実践研究大会三重大会に参加しました。今回は、「言語活動と練習」について書きます。

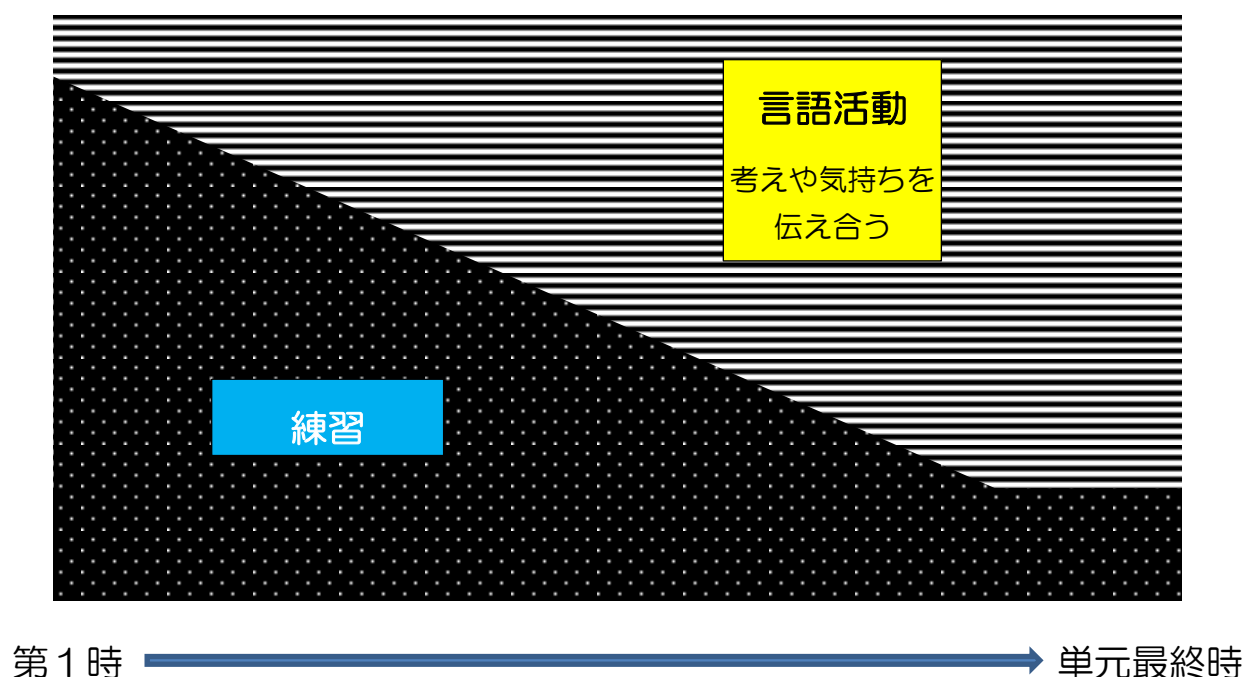


上記のように、言語活動と練習とが区別されました。その違いは、「自分の思いや考えが介しているかどうか」です。クイズやゲームなどは、語彙や表現に慣れ親しむための「聞く・話す必然性」を作り出す効果的な活動ではありますが、そこに「自分の考えや気持ち」が介さないのであれば、「練習」となります。



では、これからは、「言語活動のみ」となり、新出語彙や表現に慣れ親しみ、繰り返し復習する「練習」がなくなるのかと言えば、そうではありません。

単元全体での「練習」と「言語活動」とのバランスのイメージ図です。



単元全体を見通して、始めの頃は、慣れ親しませたい言葉や表現を、歌やチャンツ、反復などの練習を多く取り入れ、単元のゴールに向けて、練習と言語活動を行き来しながら、言語活動の部分を増やしていきます。

ここが、新学習指導要領における捉え方の大きな変化です。この捉え直しは、小学校のみならず、中学校・高等学校においても同様です。

練習時においても、ちょっとした工夫で言語活動に近づくことができます。

例) スポーツ名の繰り返し発音練習時 (オリンピックで観てみたい種目)

- 本当に自分が見たいと思っている種目のみリピートする。
- これまで、自分が見たことのある種目のみをリピートする。
- 自分の好きな種目の時、「Yes , I do.(No, I don't.)」と答える。 など

子供達が、「楽しく」「たくさん」英語に慣れ親しめるような練習を取り入れ、言語活動の充実を目指しましょう！